

私と片付け

北岡 順子

一口に「片付け」と言っても、いろいろな意味内容を含んでいる。ここでは、「片付け」の意味を、使った品々を元通り納めて次回に使いやすいように整えておくこと、周囲を整理整頓すること、に限定して考えてみたい。

私の一日の生活の中での片付けは、食事の後片付け、部屋の片付け、子どものおもちゃの片付けなど雑多である。

毎日、無意識のうちに、いろいろな片付けを行なっているが、今あらためてふり返ってみると、その方法や手順は、母の影響を大きく受けているように思われる。使った品々を元通り納めるといふ面についてみると、食器の洗い方や納める方法、部屋の家具の配置や納める方法、更には、押入れやタンスの引き出しの中の整理整頓の方法等、知らず知らずのうちに母のやり方をまねて自分のやり方としてい

ることに気付く。また、散らかった状態をきれいに整理整頓するという面についても、ほぼ同様である。散らかった状態の感じ方、とらえ方も、幼少からだんだん身につけていくものだと思われる。母が家庭の中をどのように片付けていたかということ、感覚的にとらえて、それを自分の判断の基準にしていることが多分にある。したがって、「散らかったから、さあ片付けよう」と判断するきつかけが、人によって異なるのは当然である。

このように、周囲の身近な人の影響を受けながら、片付けを行なっているのであるが、いかに影響を受けようとも、私流の特色のあるやり方で片付けを行なっている。つまり、周囲をきれいに整理整頓し片付けるといふ場合、とにかく整理整頓するということ優先させるか、あるいは

は、次回に使いやすいうにすることを優先させるか、と言うところに差が生ずるように思われる。母などは、時間をかけて、ていねいに片付ける方である。次回に使う時に、まごつかないようにと、今の労をいとわず、ていねいに片付けている。私は、どちらかと言えばその反対の傾向にあるようである。最初のうちは、ある程度、きっちり片付けるが、いつの間にかまた散らかってきて、次第にとにかく早く片付けることばかりを先に考えてしまつて、いろいろの物を一緒に片付けてしまう。したがつて、また時間がたつと、もう一度大々的に片付けなくてはならない羽目に陥つてしまつてゐる。このことは、とにかく目先の問題さえ解決すれば、あとは何とかなるだらうという、私の悪い癖のあらわれであらう。学生時代から、試験の前日にならないと勉強しなかつたこと、夏休みの宿題を休みの最後の一週間位で仕上げたこと、今でも仕事のメ切が迫つてからでないとりかかろうとしないこと、等々。これらはいやなことは少しでも先に延ばして、現在は業をしたいという、私の悪い癖のなせる業であるように思う。

このように、片付け一つのことを考えてみても、自分の

育つた環境の影響と、自分の性格が強くにじみ出ていると言へる。自分自身のことをふり返つてみて、今になって母の影響を大きく受けているといふことをあらためて認識し、やや驚きを感じている。子どもの性格形成に親の態度が影響を及ぼす、と言ふことは既成の事実として、頭の中で十分理解していたつもりであるが、自分自身が強く親の影響を受けていることに気付き、その事実の重大さがずつしりと頭にのしかかつてくるのを感じる。

母の鏡が私であれば、私の鏡は子どもたちに映り返つてくることになる。毎日毎日、子どもに向かつて、「おもちやを片付けなさい。勉強部屋を片付けなさい」と口うるさく言い続けている。子どもが自発的に片付けようとしなないことは、裏を返せば私の姿でもあることに気付き、子どもを叱る前に自分の生活の姿勢を正さねばと、深く反省している次第である。

(松阪女子短期大学)